

平成24年度第5回
宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録要旨

平成24年12月10日開催

平成24年度 第5回 宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日 時】平成24年12月10日(月) 午後1時30分～3時00分(1時間30分)

【場 所】宝塚市クリーンセンター 3階 会議室

【出席委員】委員17名中11名。

委員の過半数以上の出席があり、宝塚市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項の規定により会議は成立

出席委員は次のとおり

中丸会長、池田委員、中野委員、藤井委員、中村委員、池田則夫委員、金岡委員、橘委員、戸川委員、国山委員、頼岡委員

【事務局】環境部長、クリーンセンター所長、管理課、

(株)日本環境工学設計事務所

【傍聴者】なし

1 開会

部長あいさつ

2 プラスチック類の分別・処理のあり方についての意見募集結果について

事務局：(パブリックコメントの結果等に関して資料説明)

中丸会長：プラスチック類のあり方についての意見募集結果について意見があればお願いしたい。

橘委員：意見が1名あったとのことであるが通常この程度か。

事務局：様々な媒体を通じて意見募集した結果である。通常どの程度か示すことはできない。既定計画に対するパブリックコメントの際は多数の意見があった。

藤井委員：プラスチックの分別が浸透してきたからではないか。

中野委員：プラスチックの分別が定着してきたので意見しようが無い。

橘委員：意見が少ないことは市民の関心が無いとも受け取れるので参考に伺った。

中丸会長：制度が大きく変わるときには市民の関心が高まり、意見も多数寄せられる。他に意見は無いか。無ければ審議会としてプラスチック類の分別・あり方について原案のとおり決定し、市長に答申するものとしてよろしいか。

(全委員了解、原案で決定)

3 宝塚市一般廃棄物処理基本計画について

事務局：(前回の審議会における意見を踏まえ、宝塚市一般廃棄物処理基本計画の修正箇所を重点的に説明)

中丸会長：宝塚市一般廃棄物処理基本計画について意見があればお願いしたい。

(意見無し)

中丸会長：意見が無いようなので原案に関して、審議会ですべて了解したものとして取り扱うがよろしいか。

(全委員了解、原案で決定)

4 宝塚市一般廃棄物処理基本計画（概要版）について

事務局：(宝塚市一般廃棄物処理基本計画概要版について資料説明)

中丸会長：宝塚市一般廃棄物処理基本計画概要版について意見があればお願いしたい。

戸川委員：概要版はどのような形で印刷されるのか。どのように配布されるのか。

事務局：A3版1枚にA4横の内容が4枚分収まるようにしたいと考えている。どのように配布するかはまだ決めていない。

戸川委員：目標達成時の経費削減効果はより強く書いてよいのではないか。

池田委員：同意見である。目標達成時の効果を経費で示すことは市民にとって目標としてわかりやすい。表現の仕方はわかりやすくすべきである。目標を達成した場合と現状のまま推移した場合の経費をわかりやすく示すべきである。

中丸会長：わかりやすく、目標と結果を見せる必要がある。

また、3Rという言葉について、意外に知らない人が多い。

藤井委員：数字とか字はあまり見ないので図とかイラストで示すと良い。

自分の周りにも3Rやごみゼロ推進委員、生きびん等の言葉を知らない人が多い。わかりやすく示すことが大切である。

中野委員：3Rと言うとわからない。リサイクルと言うとわかる人は多いと思う。リサイクルとリユースを混同している人も多い。わかりやすい表現のしかたを検討する必要がある。

中丸会長：計画の実行を促す上で、わかりやすいプレゼンテーションの方法が重要である。また、事業者、消費者、行政の3者が協働して実施することが重要で、言葉だけでは伝わって来ない。基本計画本編に示した3者協働の取り組みと役割分担の図を加えることが望ましい。

経済的なメリットを強調して自分の得にもなる、さらにみんなの得にもなることを示すことも大切である。

若い人も関心を持つようにすることも大切である。

推進員の皆さんはどなたか、またそのご尽力などに対する認識を深めることも大切である。

紙くずを丸めて捨てずにリサイクルしたら、また宝塚市民22万人がそれを行ったら木を何本切らないで済むのか、定量化して示していくことも大切である。

地道な努力が必要であることを認識してもらうための粘り強い説明とわかりやすいプレゼンテーションを考えて欲しい。

橘委員：分別が徹底されることなどによって、一人当たり経費がどの程度安くなるか示せないか。

事務局：分別が徹底されると資源物の回収量が増加するので、それに伴い経費が増加するため、減量と経費の関係を単純に示すことはできない。焼却処理費で示すほうがわかりやすい。

池田則委員：ごみゼロ推進委員のことを知らしめることが重要である。

中丸会長：実行段階で検討願いたい。

中野委員：災害ごみについて、クリーンセンターの防災対策はどうなっている。

事務局：地震に対しては新耐震構造となっており、対応できている。水害の場合は対処しようがない。

戸川委員：本計画が策定された後、年度毎の計画はいつごろ策定されて、どのように市民に公表されるのか。

事務局：毎年、実施計画を策定し年度末に告示（HP）に掲載している。

池田委員：節減効果を示すために、処理経費は累積で計算して比較すべきである。

中丸会長：自分の小さな努力が毎年蓄積されてどの程度大きな効果が得られえるか、その経済的な貢献が示せればよりわかりやすい。細かな説明を示さずともインパクトの有る表現をすれば、わかりやすく市民の実行の意思を喚起しやすい。やりがいにもつながる。デザインなどの工夫もお願いしたい。

藤井委員：プラスチック分別のときに自治会を回って説明があった。実際のものを持ってきて説明があったのは効果があった。映像で訴えるようなPRができないか検討願いたい。

事務局：説明会を実施した際の効果を実感している。重要なことだと考える。モデル地区でPR用のビデオを撮影し、それを使って啓発するなど、広報の仕方を工夫していきたい。

池田委員：日本人はほめるのが下手である。アメリカではがんばった人をほめたり、表彰したりするシステムがある。現場でがんばっている人を表彰するのも良いのではないか。表彰するひとをごみゼロ推進員の中から選んではどうか。そうした人が現場で活躍してもらいたい。表彰制度はあるのか。

中野委員：環境推進員においては表彰している。市はそのアピールが下手である。効果的なPRを期待する。

中丸会長：表彰などによりモチベーションを上げていくことも必要と考える。表彰においては市民団体と行政で連携していくことも大切である。他に意見は無いか。

（全委員了解、意見無し）


5 その他


事務局：基本計画については市内部で検討し、1月から1ヶ月パブリックコメントを行う。あわせてごみゼロ推進員から意見をもらう。

次回の開催については2月を予定している。日程が決まり次第報告する。

上記議事録について議事内容と相違ないことを承認し、ここに署名押印する。

平成24年12月10日

議事録署名人 橘 剛史 

議事録署名人 池田 則夫 

議 長 中丸 寛信 